

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201574		
法人名	株式会社 フロンティア		
事業所名	グループホームウェルスタイル拓北 1階		
所在地	札幌市北区拓北8条3丁目1-8		
自己評価作成日	令和1年12月3日	評価結果市町村受理日	令和2年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190201574-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 職員のスキルを活用したレク活動を各々が実施できている。 「はり絵・エコクラフト・折り紙・ハンドベル演奏・手作りおやつ」</p> <p>* 利用者の身体状況に応じた福祉用具を随時利用する為、福祉事業所との連携がある。</p> <p>* 眠りSCANの利用にて安眠を妨げない排泄誘導が行えている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和1年12月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム ウェルスタイル拓北」はJR拓北駅から徒歩7分ほどの住宅地に立地し、2019年2月に開設した1年目の事業所である。駅前には食事の店やコンビニエンスストア、また周辺に保育園や公園、喫茶店、小規模のスーパーなどがあり、生活の利便性が高い。向かい側にある法人経営の高齢者住宅とは夏祭りを合同で行い、災害時の協力体制を整備している。新築2階建て2ユニットの共用空間は間取りや色彩を工夫し、清潔で明るく広々としている。居間には高さ調整ができる食卓テーブルや安定した椅子を用意し、別に設けたソファ席には一人掛けなど好きな場所でゆったりと寛げるように配置している。4か所のトイレは車椅子対応が可能で、ドアの開閉にも工夫が見られる。管理者は法人のエリアマネージャーに相談しながら、積極的な姿勢で関わり、家族の協力も得ながら運営を進めている。開設1年に満たないが職員の定着率も高く、家族や利用者の安心感につながっている。職員の希望も入れて毎月のように勉強会を行い、必要な知識を高めてケアに反映させている。計画作成担当者を中心に詳細な介護計画を作成し、利用者の自立に向けて職員は温かな姿勢で可能な限り個別支援を行っている。明るい笑顔で利用者や家族に接し、家庭的な温もりの中で熱心に取り組んでおり、今後に期待できる事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人と心を大切にする」の理念実践の為、利用者の思いに寄り添い職員同士のコミュニケーションにて問題解決していける関係性ができている。	「人と心を大切にする」との法人基本理念に沿って、職員は利用者の思いを尊重しながら対応している。事業所独自の理念については、今後作成する方向で検討している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を職員間で話し合い、共通認識のもとに作成することを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接するパン屋でのパン購入や散歩時の近隣住人への挨拶等で交流している。町内会行事への参加計画が有り。(熱中症等で中止)	町内会に加入しており、法人夏祭りには近隣にチラシを配り参加を呼びかけている。保育園児が来訪して歌を披露し、楽しい交流になっている。高等支援学校の実習生を受け入れており、利用者と一緒に体操をしたり散歩に出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民へ参加して頂くよう夏祭りを開催し認知症の人の生活をご理解頂く機会を作っている。地域の障害者施設の学生ボランティア受入れを実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には毎回10名以上の家族が参加され、活発に意見交換が行えており、その意見を会議で検討しサービスに活かせるよう周知している。	2か月ごとに会議を開催し、地域包括支援センター職員、多数の家族参加を得て、行事、研修などの報告を中心に意見を交換している。町内会長に議事録を持参し参加を依頼しているが得られていない。会議案内と議事録を全家族に送付している。	今後も町内会との関係を築きながら、代表の参加が難しい場合は役員も含めて会議に参加が得られるよう期待したい。また会議案内に主要なテーマを記載して送り、会議への関心が深まるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて包括支援センター職員にサービスの実情を伝えと共、今後困難事例の相談を行っていく予定がある。	介護保険制度の運営や人員基準で指導課に確認する事もある。介護認定更新時やおむつサービス申請で区役所に出かけている。地域包括支援センター職員に事例などを相談し、情報を得ながら対応につなげている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い身体拘束にあたる行為の理解を深め自らの行っている介助が身体拘束となっていないのか振り返るようにしている。毎月の会議で活発に職員間の意見統一が行えている。	身体拘束廃止適正化指針に沿って、3か月ごとに委員会を行い、役職者と一般職員も参加し事例について確認している。委員会の内容に沿って、年2回内外の研修で身体拘束禁止行為も学び、拘束をしない方法を話し合っている。今後は分かりやすいように書類整備を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、自身のサービスを見直す機会を持つと共に、職員間の連携にて話し合いができる職場である。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見を必要とする利用者はまだいない為、学ぶ機会はまだない。権利擁護に関しては研修済		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にあたっては常にしっかり説明を行い、理解・納得のうえ署名頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の希望は随時に聴取し可能な事は計画している。運営推進会議にて家族要望を外部者へも知って頂き業務運営に反映させている。契約書に苦情窓口を明記している。	運営推進会議や来訪時には、家族の率直な意見があり、提案なども聞いている。意見や連絡事項は支援経過記録や職員間の連絡ノートに記載し共有している。職員が交代で「拓北通信」を作成して送り、普段の暮らしを伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議にて職員負担の聴取を行い改善できるよう取組んでいる。	全体会議後にユニット会議でケアや介護計画見直しの意見交換をしている。職員の意見を取り上げて月2回の会議を1回に変更したり、業務などの提案があれば試して決めている。年2回の個別面談のほか、必要に応じて個別に話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアマネ業務の時間を他職員に周知する等、必要な条件整備を行って来ている。定期的に職員ストレスの聴取を行い適切な労働環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネ試験や実践者研修の他、各種研修(有料研修含む)の受講も推奨する事で職員の介護力を高める取組が行えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の高齢者住宅との連携にて一緒に学ぶ機会を持ったり、他のGHとの相互見学や往診医が行う研修等で同業者と交流する機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人面談の時には、本人の声にも耳を傾け、本人が入りたくなる・安心できる雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、在宅介護が限界になった経緯を無理なく聞き取り理解してサービスを開始している。家族の寂しさにも寄り添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「希望する事の見極め」が行えている。自立支援として「少しの声掛けや促して行なえる事」を増やす為「出来る事の見極め」を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒におやつを食べたり、片付けを手分けして行っている。日々分担して家事を行い、職員業務を手伝う気持ちが利用者様にうまれている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族の事を忘れてしまう時まで」心置きなく面会ができる施設環境を作り、職員にも家族との関係作りを周知している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への一時帰宅等が可能な利用者様へは、外泊も提案できている。一部利用者様は外泊ができている。	昔の同僚や近所に住んでいた知人の来訪がある。お便りの返事を手伝うこともある。お墓参り、法事、結婚式などで家族と外出し、外食を楽しむ方もいる。趣味の手芸や物作りなどは可能な限り継続できるようにレクリエーションに取り入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間の見守りにて転倒防止できていたり、不穏時には話相手になる等利用者様が他者を気遣う姿もみられている。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了者はまだ少数の為、これからの取組となるが家族からの連絡が続く時には、現状の聴取し家族の不安に寄り添っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別にモニタリングをし、暮らし方への希望の聴取が行えている。	ほぼ会話が可能で、その中で意向を把握し介護計画に反映させている。利用開始時にフェイスシートに生活歴も記録しているが、見直す機会は少ない。	会話などから得た暮らしの習慣や趣味、嗜好などを書式に記録し、現在の意向を共有できるように期待したい。また変化なども具体的に追記し、定期的な更新を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生い立ちや、昔の暮らしぶりを把握し家族と離れて暮らす不安や寂しさを理解している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調を把握しながら、活動量を職員と検討。有する力を維持できるようレクや行事への取組がしっかり行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにて本人へのケアに不足や変更の必要性を検討できている。モニタリング等家族から聴取した意向も職員へ周知改善できるところは随時反映させている。	計画作成担当者が毎月モニタリングを行い、担当者会議で確認し3か月～6か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録では今後、実施チェックのほか短期目標に沿って支援内容の変化なども記録し、評価につなげることを検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	不満の訴えや楽しい表情等、感情変化の気づきを個別記録に記入すると共に、日勤者から夜勤者への申し送りをを行いサービスの情報共有を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ることを増やす取組として、各職員のスキルを活用したレクを活発に提供し少人数の寂しさがある時には、2Fとの交流を行って通常との変化ある生活を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎に地域の花観賞の為に外出したり目的を持って歩けるよう取組んでいる。ロイズガーデン・百合が原公園・茨戸川等に外出。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族及び・現主治医の意向を反映しかかりつけ医を選定している。必要に応じてバイタル表を提出したり看護師が医師と薬の調整を連携する事ができている。	協力医療機関のほか、2か所のかかりつけ医を継続して訪問診療を受けている。専門的な他科受診は家族が対応し、必要に応じて健康情報を渡している。今後は一覧表の受診内容を、利用者ごとに整理し経過がわかるように検討している。	

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日朝のバイタルや気づきを看護師に伝え介護職が行えない。処置を依頼したり看護からの指示を受ける事ができている。連携良好にて利用者対応を問題なく支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早急に入院時情報提供を作成し病院へ提出すると共に退院が可能な時期には、本人面談及び担当看護師からの聴取を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	安定剤や抗精神薬等の使用希望を早い段階から聴取し、使用・不使用のリスクを説明しながら支援している。看取りや重度化に対する指針を契約時に説明している。	「重度化に関する指針」に看取りの考えを明記し、医療行為が継続する場合は対応が難しいことも説明し同意を得ている。状態の変化に応じて関係者で方針を確認し、意向に沿って方向を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常日頃から、職員間の役割分担や手順を確認している。落ち着いて行えるようシュミレーションできている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特に夜勤時の避難方法を近隣に住む家族の協力体制を整えると共に、消防訓練・避難訓練を近隣住人にも参加を促す予定がある。	年2回避難訓練を実施し、消防署の立ち会いで日中を想定した避難訓練、また夜間を想定した自主訓練に地域住民の参加が得られていない。水害や地震を想定したマニュアルに沿って職員に対応を周知している。備蓄品は整備中である。	町内会との話し合いで災害時の依頼部分を明確にし、避難訓練には町内会役員などの参加も得て行うことに期待したい。また職員の救急救命訓練の受講を計画的に進めるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼名も本人の意向をくんで、名字や下の名前で呼び、あだ名等は禁止している。	開設時に接遇研修を実施し、馴れ合い的な声かけがあれば会議で注意を促している。申し送りは小声で行い、記録類は事務所で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で選べるよう「どっちがいい?」「何をしたい」等の声掛けが行えている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員不足で個別対応が困難だが、出来るだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった洋服を出来るだけ自分で選び着ることができるよう選択の声掛けが行えている。衣類の清潔が保てるよう支援している。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのおやつを作り、利用者と職員と一緒に楽しむ事ができている。片付けや準備も利用者が自発的に行えるようになってきている。	副食は法人施設の調理室で作り、ご飯と汁物は各ユニットで調理している。定期的に調理レクを計画して、利用者と一緒にジンギスカンや餃子、手巻き寿司を作りパーティーを楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食事量の調整・夜食の提供等、個々の食習慣に応じた支援を行っている。水分量不足する利用者は、ゼリー等を提供し出来るだけ水分不足にならないよう工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の利用者へは声掛けし食後の口腔ケアを行って頂き、自身で困難な利用者は義歯管理も支援を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿量に合わせた適切なパットを利用し下着の上げ下げ等できる動作は自身が行えるよう介助を行っている。尿意ある人には意向を聞き、尿意ない人へは定時誘導できている。	「排泄・水分チェック表」に全員の排泄を記録して、昼夜ともにトイレでの排泄を基本に個別に対応している。家族と排泄用品を検討したり、声かけなどに配慮して、心地よく過ごせるように工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理を行い、水分摂取を促すと共に腸の動きを活発にする為の運動に参加してもらえるよう支援している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したくない日や、体調に合わせて本人の意向を確認し変更が必要な場合は振替等行っている。好みの湯温で気持ちよく入浴できるよう配慮している。	日曜日以外の午前中を中心に、一人週2回の入浴を支援している。浴槽の湯を毎回交換し、希望に応じて入浴回数を増やしたり同性介助で支援している。入浴しながら職員と会話を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	活動と休息のバランスでメリハリある生活が送れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師との連携で必要な薬を適量に服用できるよう調整が行えている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	達成感を感じられる作り物にて満足感を感じてもらったり練習成果を2Fユニットや運営推進委員会で発表する事ができている。			

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	回転すし・カラオケ・喫茶店等、月々の計画をたて外出ができています。散歩を兼ねた買い物外出の他、向かいの高齢者住宅でのコンビニ販売購入の為外出が行えている。今後近隣住人の場ランティアを募る予定。	普段は車椅子の利用者も一緒に近隣を散歩したり公園に出かけている。畑作りや野菜を収穫する方もいる。ローズガーデンやカラオケ、喫茶店や甘味処などに出かけることもある。新琴似方面に花見に出かけたり、茨戸川沿いの紅葉を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ、現金所持を許可しており、家族とも連携している。預り金での個別買い物にも対応。支払能力の見極めできている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身で電話をかける事はできていないが、かけてあげ話ができる支援を行っている。手紙はまだやり取りしていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設を清潔に保っている。季節毎の飾り物や行事を計画し、季節を感じれるよう工夫している。居室の調光照明で好みの明るさにしている。	対面式カウンターを備えた台所から全体が見渡せる開放感のある造りになっている。一人掛けのソファもあり、好きな場所でゆっくり過ごせるように配慮している。クリスマスツリーやサンタクロースの装飾など、利用者と一緒に作製した作品などが飾られており家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席とソファーに分かれ、それぞれ好む場所にて過ごしている。広い空間だが居場所のない利用者はキッチンカウンターで職員と会話して過ごす事だできている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやタンスの持ち込みにて安心できる。自分の居室がある。写真や人形等を飾り居心地よく過ごさせている。	クローゼットとベッドを備え付けた各居室は、果物や花の名前が付けられている。テーブルや椅子、使い慣れたタンスなどを持ち込んで落ち着いて過ごせるように工夫している。好きな縫いぐるみや写真を飾り、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれが好きな場所で遊べるようゲームやパズルを配置している。壁には手すりがあり自分で移動する事ができる。トイレや浴室は色分けし分かりやすくなっている。居室入り口には、それぞれの飾りが目印になっている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201574		
法人名	株式会社 フロンティア		
事業所名	グループホームウェルスタイル拓北 2階		
所在地	札幌市北区拓北8条3丁目1-8		
自己評価作成日	令和1年12月4日	評価結果市町村受理日	令和2年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* 栄養バランスを考慮した食事提供の為、調理を専門業社に委託。そのかわりに入居者様と(週/3回)手作りおやつをスタッフと作り美味しい物を食べて笑顔の時間を皆様と共有出来ています。 * 眠りSCAN(パラマウンド社製)を居室に設置。入居者様の睡眠状況の記録と状態把握。適切なタイミングで体交やトイレ誘導が実現できている。ご家族様もデータを示して情報を受け状況把握ができています。 * 法人内の福祉用具を無償で入居者様に提供行っている。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190201574-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年12月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念:人と心を大切にする。理念を基に、入居者様の自立支援の為にケアサービスをさせて頂いています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域開催のイベントや事業所主催のイベントで地域交流を行っています。気軽に訪問して頂けるよう心掛けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催のイベント時に、医療・看護の相談コーナーを設けて地域貢献に努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催。入居者のご家族様や地域包括支援センターのケアマネージャーからご意見や助言を頂きサービス向上に反映させて頂いています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所及び本庁舎の関連部署や地域包括支援センターの担当者様に相談や助言を頂き業務を行えています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内及び外部研修に参加して知識や技能向上に努めています。ポイントをメモして、拘束にならないケアを実践。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	巣穴医及び外部研修に参加してスタッフ間での情報共有。お互いのスキルアップを実践。ポイントをメモして虐待防止に努めています。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内及び外部研修に参加して、スタッフ間での相互理解・スキルアップに努めています。ポイントをメモして入居者様の権利を保てる生活を支援しています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書締結時に、文章の理解向上の為に補足説明等を丁寧に行っています。不安な点を傾聴して不明な点は調査して回答。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を定期的に開催。入居者様・ご家族様・地域包括センターの担当者様に助言を頂きサービス向上に反映させて頂いております。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善の意見や外部研修への参加要望に丁寧に対応して頂いている。意見等を言いやすい環境作りを頂いています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議での業務改善やサービス内容の見直しについて評価や対策に早期対応して頂いている。現状の把握と将来の見込みの説明も頂いている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の自己研鑽への声掛けや研修機会に向けた案内を頂いている。メンタル面にも配慮して頂いている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の系列同業者や異業者間で研修や勉強会を開催。相互理解やチームケア促進に役立てられている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク面談時に、ご本人とご家族の希望と課題を傾聴。可能な限りご本人には実際に来所し職員・施設環境の雰囲気を実感して頂いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人とご家族様に実際に施設訪問をして頂いて入居希望を確認。グループホームは、普通の家とおなじ空気や時間の流れの生活空間である事を理解頂き不足部分を支援。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の望む生活を把握。将来像を確認。障害されている原因を見極めて必要な社会資源の提案とサービス考案して選択頂く。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の自立した独自のリズムで生活を継続できるように不足部分の支援をさせて頂いています。身体機能維持の為にできることを継続して頂いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族様を支援する為に、生活歴を情報共有化してチームケアにてご本人の望む生活を支援。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同上。グループホームにも気軽に訪問して頂き親交を深めて頂ける様に努めています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームは、普通の家とおなじ空気や時間の流れの生活空間である事を認識して頂く努力を継続。入居者様の生活リズムで暮らして頂く。食事や体操・アクティビティ・外出レクでの親交を深めて頂いている。			

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は退去者なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	インテーク時に確認。ご本人の状態件かやご家族様の意向に対応。毎月のカンファレンスでスタッフ間の情報共有。サービス反映。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様毎に、生活スタイルは異なる為、カンファレンスで情報共有化を行っている。状態変化に対してサービス内容を工夫。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同上。入居者様の身体残存能力の維持・QOL向上。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	同上。状態変化に対応したサービス内容の変更を考案でご本人とご家族様に了承を頂き支援。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	同上。日々の申し送りや毎月のカンファレンスにてチームケアをさせて頂いています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本様の近況はグループホーム発行の拓北通信で毎月ご家族様に報告。ご家族様も気軽に来所され情報交換させて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	百合が原公園やロイズガーデン等に外出レクを企画・実行。入居者様同士で親交を深められています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームが提携している内科医や歯科医・皮膚科や薬剤師のご協力で入居者様の特変時に早期対応ができています。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は、平日の午前中に入居者の状態観察等をして頂いている。細部に渡り献身的に対応して頂いている。メンタルケアもして下さっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の急変時のマニュアル整備。実働を通してスタッフ間の冷静な対応が出来ている。振り返りを行い対応力が向上。入退院時の医療機関への訪問・情報共有。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り体制は今後の課題として、契約時に説明させて頂いています。重度化については、ご家族様と都度の打ち合わせ方針の確認。支援を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修や外部研修、各自の勉強を段階的に行っている。急変時に冷静に対応できるようスキルアップを図る。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同上。避難訓練は行っているが、町内会を含む体制作り等は作成中です。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念:人と心を大切に。理念を基に日々の入居者様毎の生活リズムで不足部分を支援させて頂ける。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	同上。何でも表現できる雰囲気作りに職員一同が努めており可能な事は実現できている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同上。入居者様毎の生活リズムに対応して要望を尊重した支援をさせて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の業者様の協力で身だしなみやおしゃれを支援できています。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の片付け(器の拭き上げ・テーブル拭き)等を体調の良い入居者様が申し出て手伝って下さっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れて食事を業者さんの協力で提供できている。水分摂取量の個別対応。不足時は増回。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣となり拒否なく行えている。出来ることを継続して頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの定時誘導や見守り・不足部分の支援は、ご本人の意向を尊重して支援できています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関や訪問看護STと連携して排便コントロール等を行えています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴準備から入居者様とスタッフが協力して行えています。楽しい入浴の印象が作り。入浴拒否時は、時間や翌日に変更等で対応できています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りSCANを活用し入眠状況を確認して体交やトイレ誘導が適切に実施できている。ご家族様もデータ確認。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師や訪問看護師の支援を受けて入居者様毎に適切な内服ができている。薬の飲み込みを確認。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者毎の役割分担が自然とできておりお互いを気遣う関係を築けています。アクティビティへの参加は自由で強制なし。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの人員不足等の問題で個別希望に対して戸外へのお出かけ支援はできていません。毎月のレクレーションをk計画・実行・振り返り。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的にセブンイレブンの訪問販売に協力して頂いている。入居者様と近隣のスーパーに買い物同行させて頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人またはご家族様からの申し出により電話を掛けたり、取次を行っています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間の間取りや内装の色彩は、法人が設計段階から配慮しており居住者や見学者から好評です。入居者様の作品等を展示して達成感を共有できています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室とフロア(共有スペースをご自分の生活リズムで往復され穏やかに過ごして頂いている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族様の打ち合わせで居室毎に居心地のよい家具の配置をされている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住環境は、照明・トイレ・浴室等の表示や色分けで視覚にて判断しやすい工夫をしています。			

目標達成計画

事業所名 グループホームウェルスタイル拓北

作成日：令和 元年 12月 24日

市町村受理日：令和 2年 1月 6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	運営理念を基にサービス提供を行っていますが、事業所としての理念を共有する。	グループホームウェルスタイル拓北としての理念をスタッフと共有行う。	理念を定期的に振り返るようにする。定期ミーティングの際に理念を共有し、スタッフがいつも見やすい場所に掲示する。	3か月
2	4	運営推進会議の際町内会の役員の方にも参加して頂くよう検討行う。	町内会の役員の方や地域の方に関心を持ってもらう。	地域の方が役立つような内容を考える。参加されていない方にも議事録をお渡しする。短時間の研修等を行う。	6か月
3	23	本人の習慣や趣味・思考を具体的に記載する。	一人一人の生活歴などを具体的に把握する。	細かく情報を記載する。どのように変化しているのか分かるよう記録での共有も行う。	6か月
4	35	地域の方々にも役割をお願いします。参加して頂く。	昼夜をとわず避難できるよう体制を整える。	年2回の避難訓練への呼びかけ・参加。地域の防災訓練に積極的に参加行う。	12か月
5	6	身体拘束委員会を開催した際の書類の整備。	3か月に一度の委員会・研修を年2回行う。	委員会の会議録と研修を行った際の資料を別々に行い分かりやすくファイリング行う。	3か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。